

9. 50四丁タイル張りの工夫

Improvement of tile works with 50-4tyou size tile

黒澤 健一郎^{*1} 渡辺 正行^{*2} 山口 克彦^{*3}

□ 目的（工事概要）

最近の外装タイルは施主や設計事務所の嗜好により、細長いボーダータイル、50三丁タイル、50四丁タイル及び目地onタイル（通常の50二丁タイルの中間に目地用の溝がある）といった多種多様な種類のものが使用されている。横幅が50二丁よりも長いものはちょっとした反りが空気だまりを生じ、最終的に打音検査時に浮きと判定されて張り替えることとなり苦労することが多く、過去にもそうした経緯があった。中でも50四丁タイルは当社技術マニュアルの規定外となり、本来であれば受注時に採用不可となるのが理想であるが、なかなか回避できずに取り入れられることが多い。

本報告では、50四丁タイル張りを施工する際に行った諸策を紹介する。

□ 概要（課題とその対処）

① タイルモルタルAAの使用

横幅の長いタイルは工場製品のため、厳密に選定されているにも係らず多少反りがある。その反りを吸収するために張付けモルタルの塗り厚を通常よりも厚くしたい。ただし、厚くすることによってタイルがだれる傾向がある。過去の事例を踏まえて、骨材の粒子が多少粗くだれにくい張付けモルタルとしてタイルモルタルAAを採用した。

② 簡易なマスクを使った改良密着張りの採用

試験施工を行った際は、振動工具（ヴィブラート）を使用したモザイクタイル張りであった。裏足の充填率確認を行うとタイルの中央部付近で多少充填不良が見受けられた。監理者からはタイル張付け後に裏面中央部をバタリングをするように指導を受けたが、非常な手間であった。職長からの提案で2mm厚の亚克力板を使用したマスクもどきの板を使用して、改良圧着張りのように施工することでその手間を省くことが可能となった。

（写真－1、写真－2参照）

□ 結果

上記の諸策を行うことで、タイル裏面への空気だまりを解消することが可能となり、品質向上へとつながった。

今後こうした特殊なタイルを施工する際は受注時によく協議するだけでなく、試験施工時に様々な手法を提案し、品質確保につながるような施工方法を確立することが重要であることが確認された。



写真－1 簡易マスクによる張付けモルタル塗付け状況



写真－2 振動工具（ヴィブラート）による加振状況

* 1 東京本店建築部工事課 * 2 ヤナイ陶業株式会社 * 3 東京本店建築部品質管理室（執筆時の所属）